

目指す学校像（ミッション）	国際社会に貢献する、心豊かな、創造力・発信力をもったリーダーを育成する学校
本年度の重点目標	・重点目標（「探究」を深める） ・重点課題（学力の伸びを徹底し、自分の頭で「考える」を再構築していく） 学力① 人間性(こころ)： その中核(思いやり) 高度の知的な脳力 創造的思考力 学力② 狭義の学力： 世界を説明する知 基礎学力(知識・理解・技能) 学力③ 広義の学力： 創造力 発信力 好奇心 コミュニケーション力

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価（2019年4月） （保護者代表5名・学校代表3名）
評価項目	年 度 当 初		中間評価（10月）	最 終 評 価（3月）		意見・要望・評価等	
	現 状	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度		
1 よりよい授業を目指す授業改善の取り組み 授業改善	<p>【PS】探究型の授業実践がまだまだ少ない。探究型の学びを積極的に行うために、教師間で授業を見合い、授業改善に取り組もうとしている。</p> <p>【S】探究を深めるために、子どもと担当教員と学年担任とで対話をもって指導にあたっている。</p>	<p>【PS】内部・外部の研修を受け、探究型の授業実践やICT活用に向けての実践及び課題を見つける。</p> <p>【PS】学園研修担当者ないしは管理職による授業参観を実施し、探究型の授業方法について具体的な課題を見つけ助言する。</p> <p>【PS】学期ごとに自身の探究型の授業実践の達成状況を自己評価し、助言をもとに改善する。</p>	<p>【PS】授業改善に向けて、教員間での「学び合い」をより活性化する必要がある。</p> <p>【P】授業を見合い、情報交流しながら協働学習や探究学習、ICT活用にむけての課題に取り組んでいる。</p> <p>【S】授業内容や指導方針など、教科や学年で意見交換をしている。電子黒板を使用することで、新たな疑問に繋がる学びができてきた。</p>	<p>【PS】ICTを活用した教育活動が、多方面で展開された。</p> <p>【P】教員同士で、互いの授業を公開し見合い、学び合う研修が実現できた。</p> <p>【S】探究型授業の実践では、個々に質の高い学びを生み出しているが、授業公開による互いの学び合いには至らなかった。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】B</p>	<p>少しずつ改善されてきているが、まだ児童生徒が受け身の姿勢で授業を受けている。正しく読み、きちんと理解することを軸にしながら、子どもたちの主体的な活動を増やす。</p> <p>【S】B</p> <p>主体的な学びを実現するためにも、到達目標を明確にしたい。学年に設定されたクラスを活用し、自律的な学習経験を積み上げ、学習集団としての文化・風土・雰囲気形成する。</p>	<p>○探究的な授業への取り組みにばらつきはあるようだが、教師同士で学び合うことで自身を振り返り授業改善につながっていくことを期待する。</p> <p>タブレットを使用する時間に差はあるもののICTを活用した教育がいろいろな面で見られた。全てのセカンダリー生がタブレットを持てる環境整備や活用した授業の拡大を早期に対応してほしい。</p>
2 異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 Teamの充実	<p>【P】Teamでテーマを設定し、年間を通して探究的な学びをしながら異学年で支え合っている。</p> <p>【S】年間を通してテーマを設定するとともに、「学びへの扉」を対話のツールとして活用している。</p>	<p>【P】Teamで一つのテーマを設定し、異学年で協働学習しながら、探究的な学びを深める。</p> <p>【S】Teamでテーマを持ち、討議し合いながら、異学年集団の力をつけていく。</p>	<p>【P】テーマを軸に異学年の対話はとても多い。さらに内容を深めていくための計画と工夫が必要。</p> <p>【S】行事を軸にした異学年活動は活発だが、普段の生活での異学年学級の良さは、まだ引き出せていない。</p>	<p>【P】年間を通してTeamのテーマを探究し続けることはできたが、検証し振り返る活動にはTeam差が見られた。</p> <p>【S】異学年活動ではTeam差が見られた。計画的に取り組んだTeamは、質的に高い活動を行った。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>ICTを活用し、各Teamの探究年間テーマの一層の充実を図る。発信の場を通して相互に他者の個人探究も知り、質の向上を目指す。</p> <p>各Teamでテーマを持ち、学習に向かう姿勢づくり・授業づくりに取り組み学習集団づくりに貢献する。</p>	<p>○Teamによって差は出ているものの異学年については一定量の成果は出ており、子どもたちの成長していく様子がよくわかる。</p> <p>子どもたちは異学年のかかわりの中で多くのことを学んでいる。</p>
3 子どもたちが主体的に生活する学校生活の実現 生き方の確立	<p>【P】子どもたちが自身でプライマリー全体を創造する姿勢を育む指導や取り組みが不十分である。</p> <p>【S】学ぶために必要なルールを創り、守り、改変する活動を児童生徒と教員とで協働して行っているがまだ不十分である。</p>	<p>【P】学年道徳や委員会において、自分たちで考え、気づいたことを実行するための場づくりを徹底する。</p> <p>【S】児童生徒会主体の「集会」を軸に、児童生徒自身が自ら考え、実行することができる学校環境づくりを実践する。</p>	<p>【P】考えさせる場や実行する機会を提供している一方で、思考の深化へのアプローチがまだ足りない。</p> <p>【S】集会は、生徒中心に機能してきたが、委員会活動は行事に追われ、生徒の自主的な活動まで計画を立てた指導ができていない。</p>	<p>【P】委員会活動では、プライマリーをより良くするための新たな取り組みや提案が随所に出てきた。</p> <p>【S】児童生徒が各集会のテーマを決めて主体的に取り組むことができた。委員会活動は、Team差を解消するには至らなかった。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>子どもたちが自分たちの課題を発見し、話し合い、解決していく経験を身近な生活から積み上げる。</p> <p>【S】B</p> <p>児童生徒一人一人が安心して学ぶことのできる環境づくりに向けて、「みんなと一緒に学習することが出来る」という在籍条件を徹底する。</p>	<p>○プライマリーは主体的な行動をとるための準備段階となるので、きめ細やかな教職員のサポートを心掛けてほしい。</p> <p>セカンダリーは個人の差が大きく開き難しい取り組みだが、生徒たちは自主性をもった行動をしようと努力しているのを感じる。</p>
4 子どもたちが主体的に運営する学校行事の実現 主体的な活動	<p>【PS】体験テーマを軸に児童生徒が自ら探究テーマに取り組むフィールドワークが確立しつつある。更に内容を深めていくことが課題である。</p>	<p>【PS】子どもたちが、自ら考え、発信していけるように、教員は具体的に明確な計画を立て、年間を通して指導にあたる。</p>	<p>【PS】子どもの興味を引き出し、より深く掘り下げて探究できるような働きかけが足りていない。子どもたちが主体的に活動するための環境づくりや問題提起が必要。</p>	<p>【PS】教員の的確なサポートもあるが、各行事において、リーダーが責任をもってグループをまとめている姿が随所で見られた。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>自分たちで考え、それを表現し、具体的に実現していくことで、獲得した力を実感させる。</p> <p>【S】B</p> <p>未来を構想し、全体を俯瞰できるリーダーを育てる。</p>	<p>○プライマリーは年齢相応に実現できている。セカンダリーは、思春期と重なって、できるがやらないという姿勢が出始めている気がする。社会と密着し体験・経験できるとよい。</p>

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満） ◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）